



健康寿命の更なる延伸のために 疫学はなぜ重要か

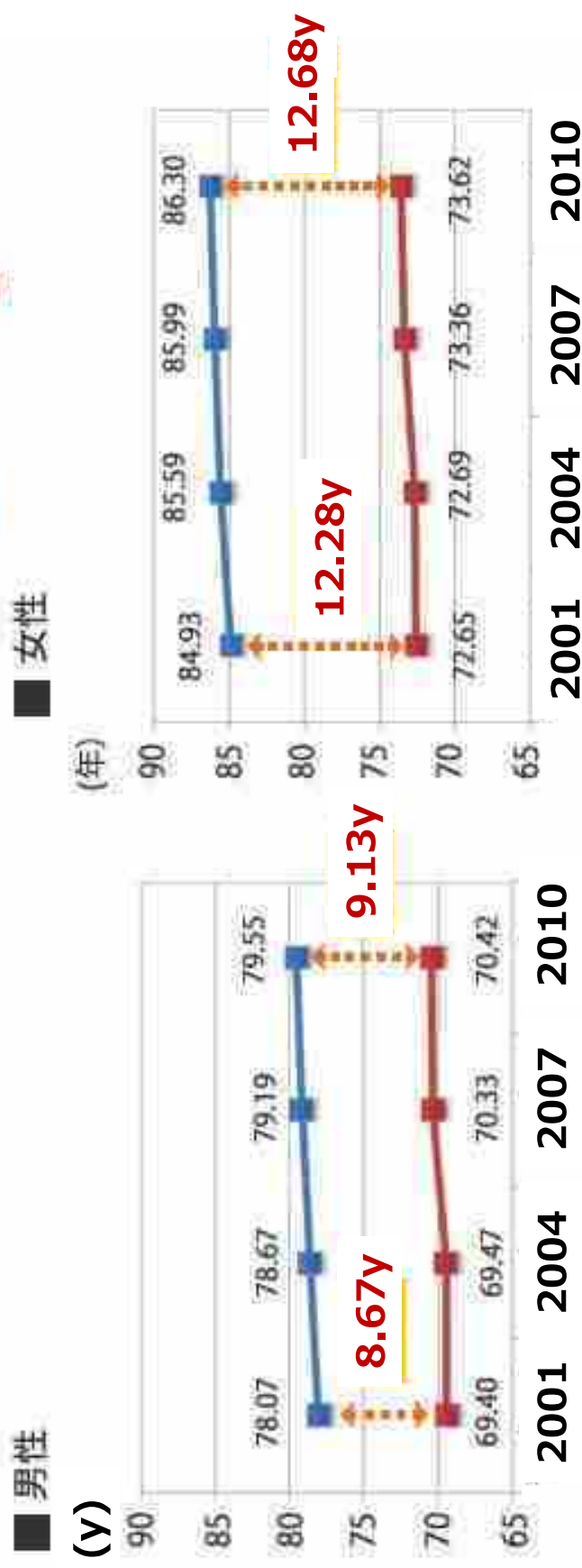
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療疫学分野・准教授
皮膚科准教授兼任

山本 洋介

専門分野：アトピー性皮膚炎 臨床疫学 QOL (Quality of Life)
認定医資格等：皮膚科専門医 医学博士
大学・卒業年度：京都大学 平成14年卒



日本における健康寿命



<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201402/1.html>

- 平均寿命と健康寿命のギャップは拡大
=低い ADL・QOLで過ごす高齢者は今なお増加

介護が必要となった原因の構成割合

**健康寿命の延伸を目指し、
「要介護状態」を招きうる
疾病を減らすには…**

1. 新たな治療法の開発
2. 各疾病のリスク因子の定量的な検証, それを踏まえた予防介入の実施
3. 既存の治療法での, evidence-practice gapの
同定・解消
4. 全ての前提として, 健康状態の正確な把握

総数	総数
総数	100.0
脳血管疾患(脳卒中)	18.5
認知症	15.8
高齢による衰弱	13.4
骨折・転倒	11.8
関節疾患	10.9

平成25年 国民生活基礎調査の概況 より



とりわけ2~4は、疫学的方法論の活用が必須

各疾病のリスク因子の 定量的な検証